花淺艸十社文庫

四

へ 13
3723
4

門 へ13
號 3723
卷 4

雁川原春雨

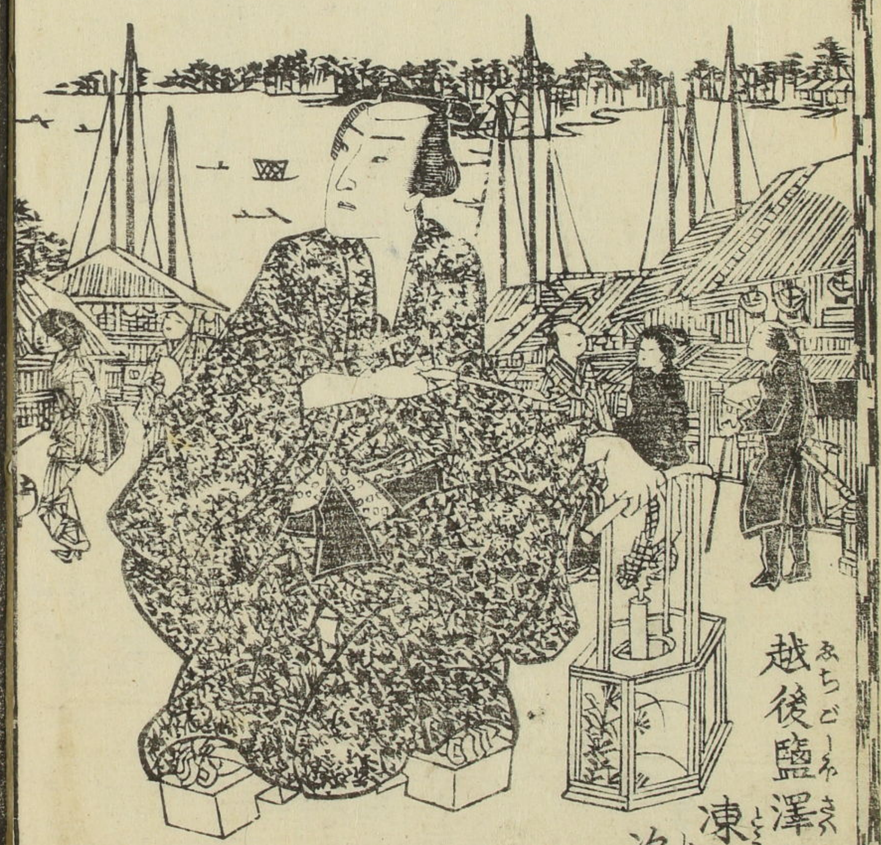
十社緣起四編叙

うや〳〵淺草川も彼細江よ侶て觀音井を繙くそるハ滅法界も裡が有と口呆ゐるも多〳〵とぞさうとそも此尊容魚捕る網よ引かゝり出現たまふのみやもまちお漁夫の妻よあるのもありて魚籃ゐ盛なる芝肴よまさうゐ蟹満寺蛤蜊觀音ゐのとよろみそ三十三體の其中ゐ阿麼提觀音もまし〳〵まセバ其も甘鯛ときてうれしくかく魚肉るお好と見ゆまゞ萬一腹を立さるゞ木魚構を頼こそお侘や申さん

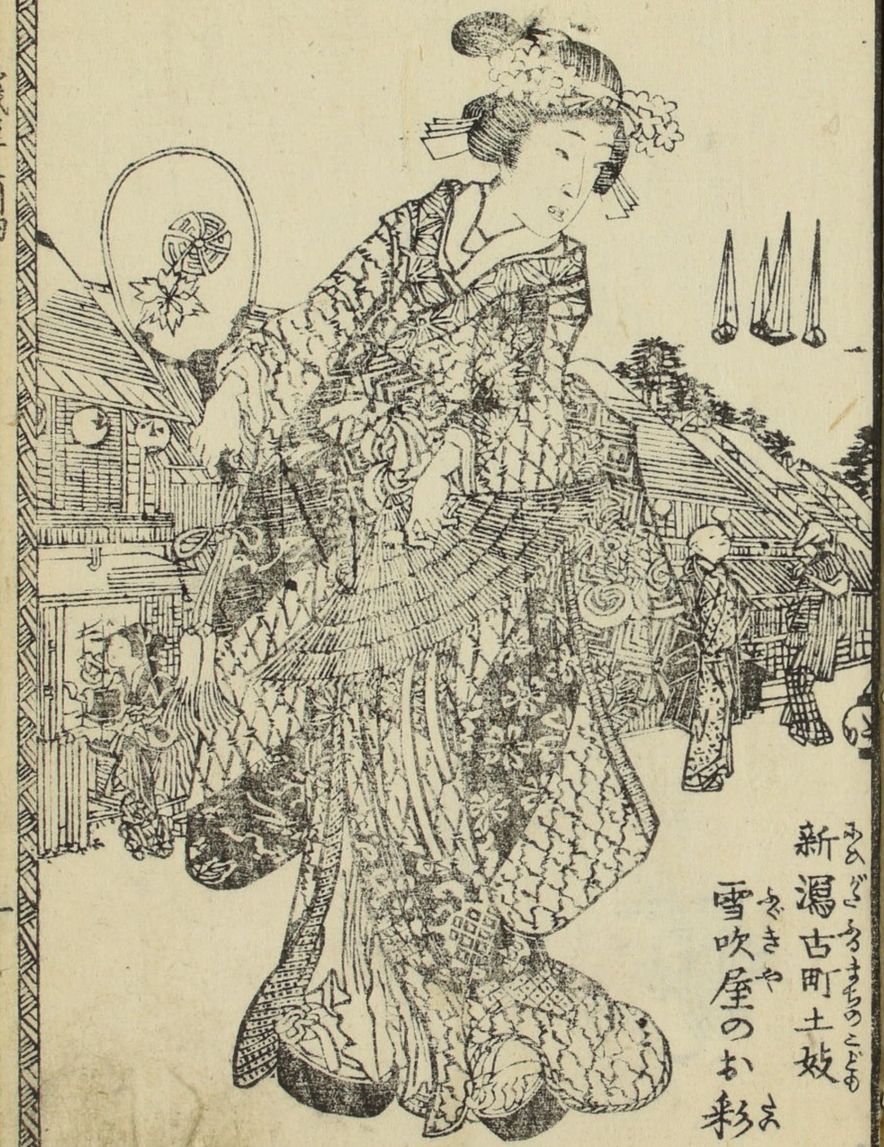
辛卯嘉月

新仏（ぢん）の盆踊唱歌

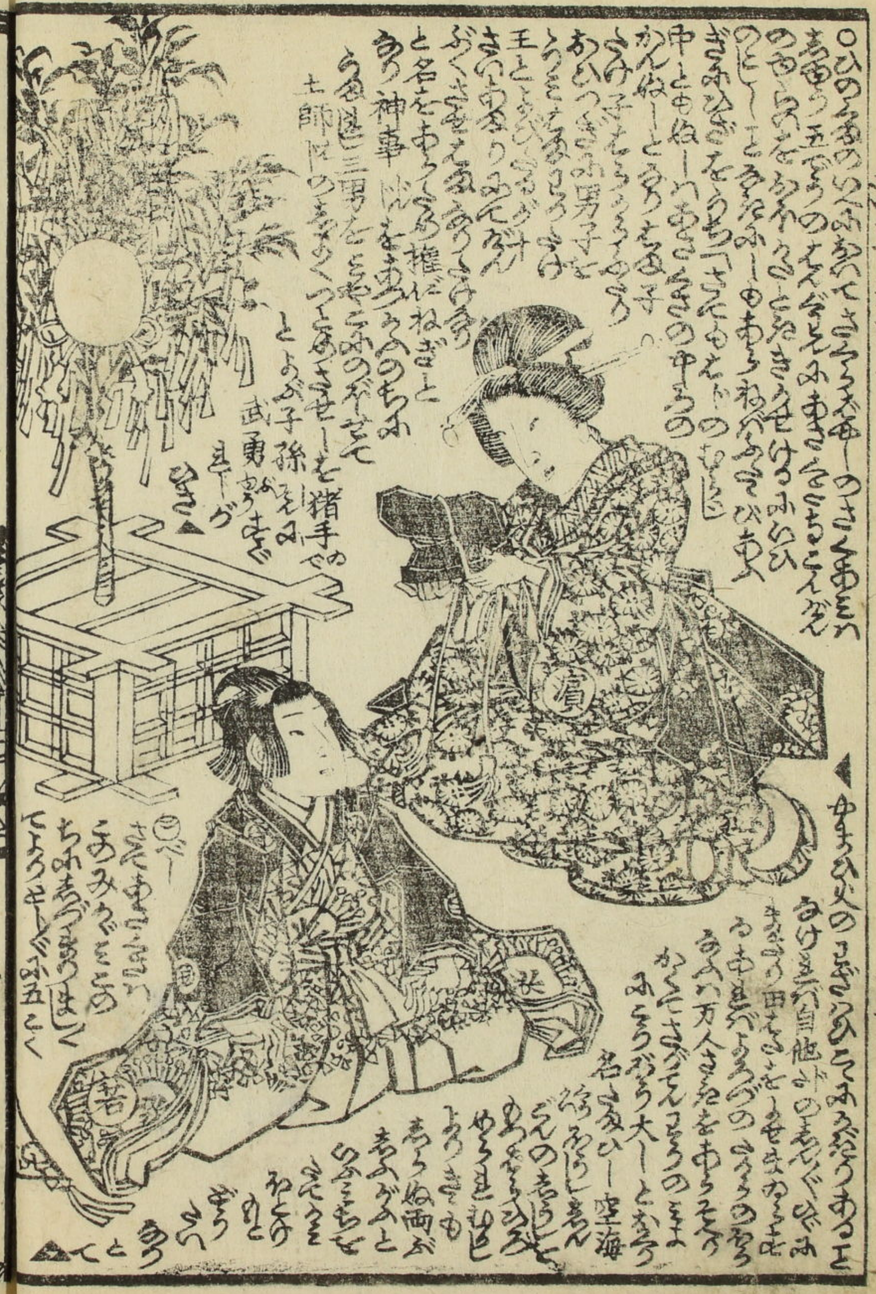
ぎせく
うきねだ
やぶる
むしの音
だきみは
ヤレかご
ゆめは



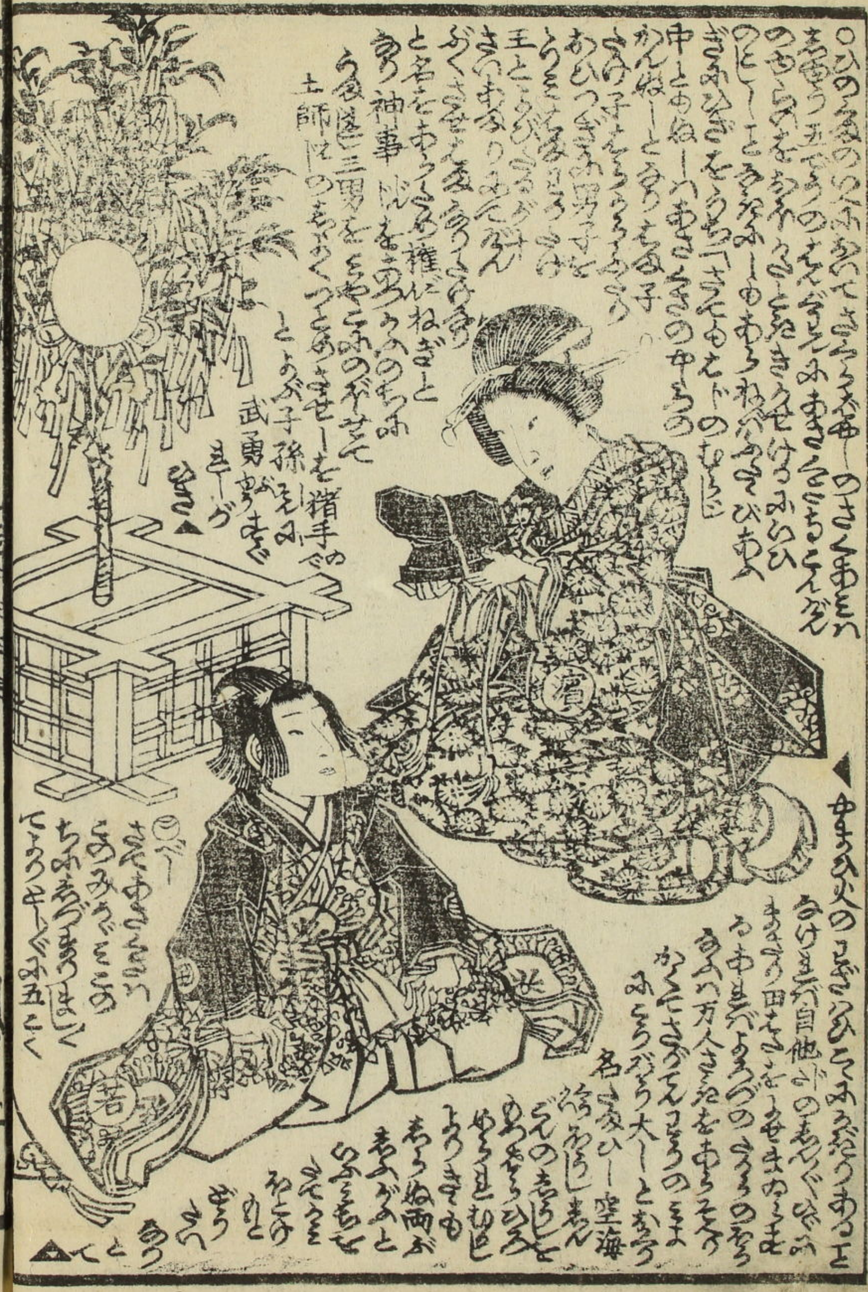
越後塩澤（ちごしほさは）の凍（こほり）次郎（じろう）



新潟（にいがた）古町（ふるまち）の子供（こども）
雪吹（ふぶき）屋のお彩（あや）

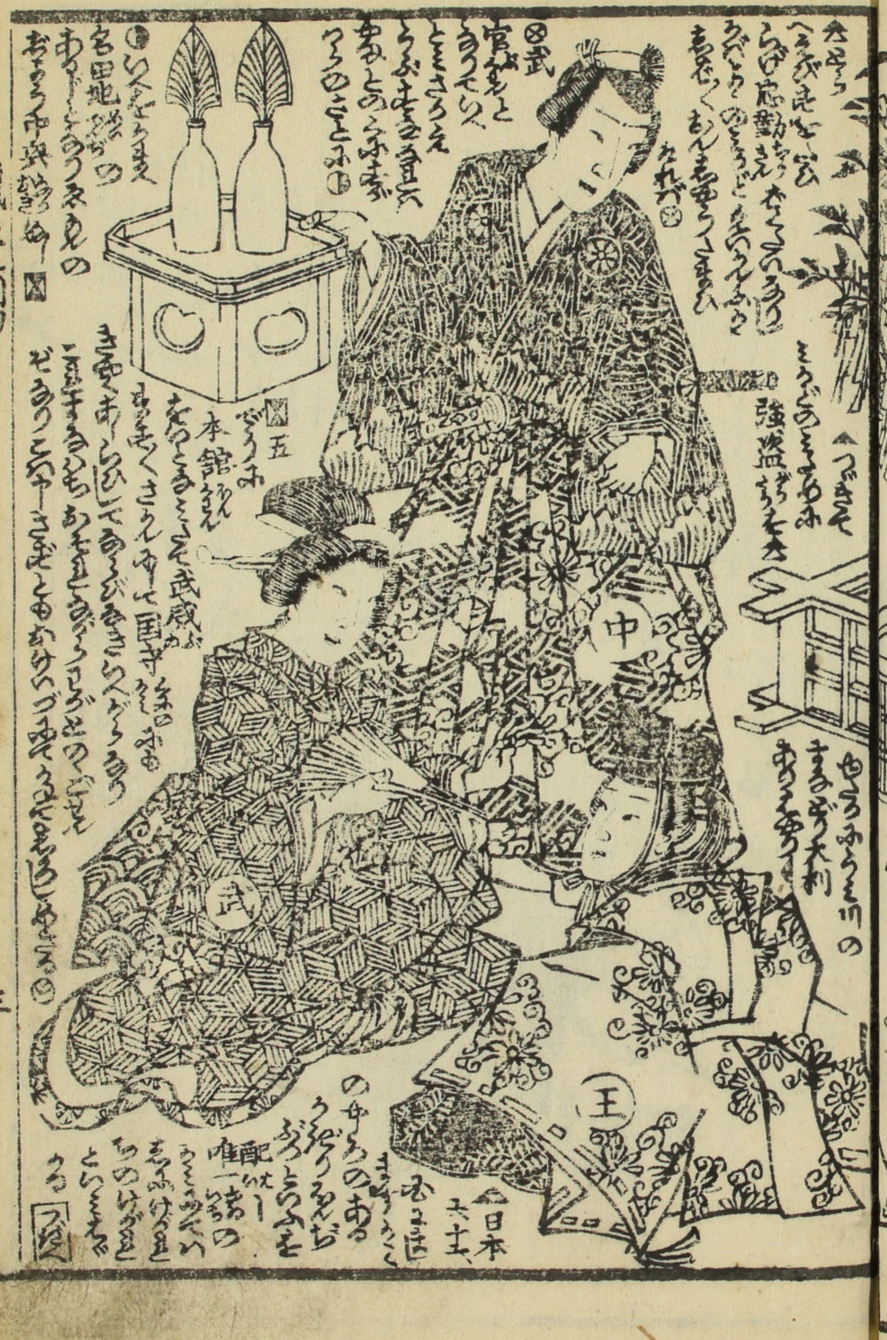


新潟古町土妓
雪吹屋のお彩



○ひのくるまのうしろにおいてさそうえもんのさくまとやじ
きたうえもんがきこりをけうみんひのとしてことさらみーのむろれべをさびあんぎみひきをうちつれ「さてもたかのかんねーとうりもの子
さの子とうろうろうろうろうろ
おもひつぎの男子を
うえこそなりうろうろ
王とこうりうぐりけ
さいまなりうたぐりん
ぶくさをおうてをうてをうてをう
と名をおうてをう推にねぎと
うり神事ルをうろうろのもの
うろ這三男をうやこれのがさて
土師はのもやくつとあさせーを楷手のべ
とうぶ子孫をみ
武勇おうさき
ーグ
さき

◀ゆうべ人火のつぎうひとてみぶろうあり工
今けまだ自他ののもんぐひ
まうの田さまをうせまかこまも
ゐ中まべようづのうろうのうろう
ゐ人万人さをもうろうろう
かくこさうでんこうろうのこよ
みろうぐろう大ーとおうう
名さ家ひーー空海
うおうし
それのきうしを
ゐうろうろう
ゆうまうろう
ろうきも
ゐうぬ両お
ゐうぐろうと
のふうもも
えてこと
のりと
ぎうへ
うと



◀つぎて
ろうぐのこうゐみ
強盗ぎうを大

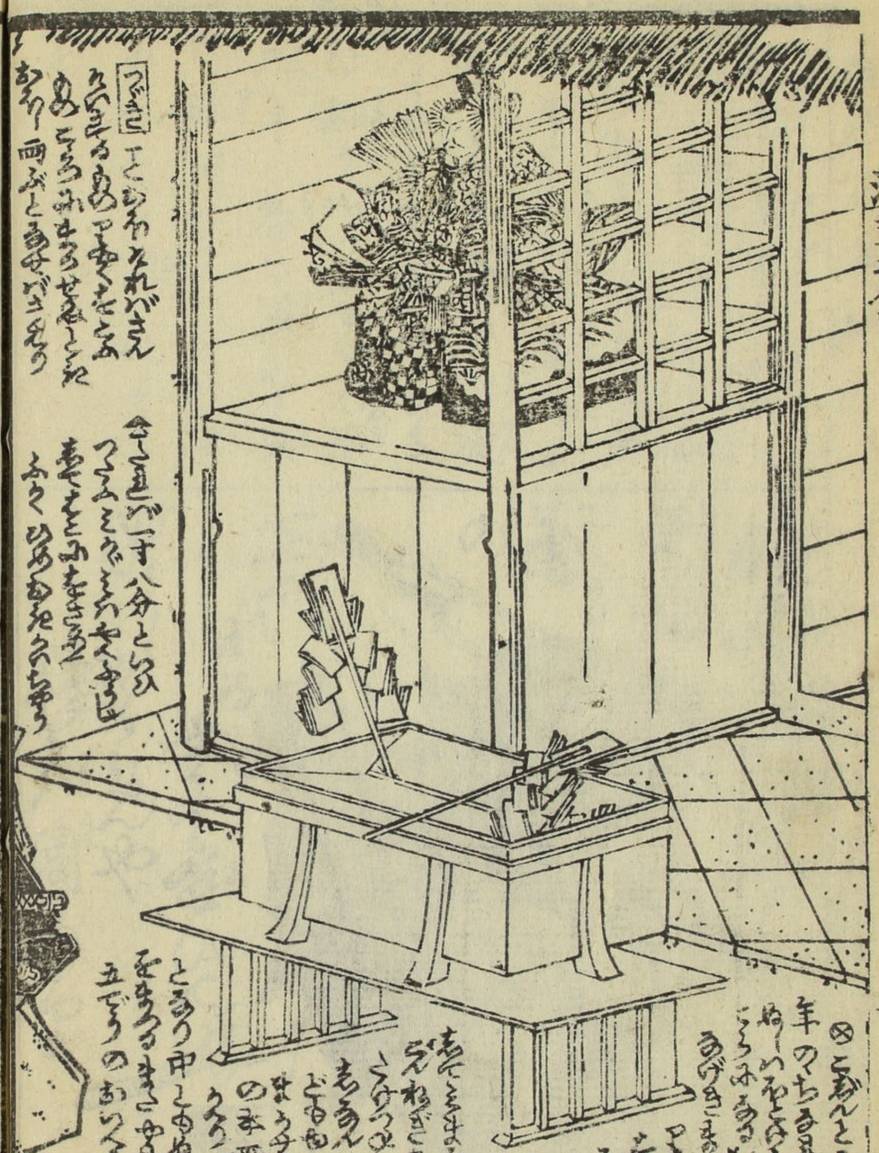
ゆうろうみうえ川のまのぎ大利
ゐうえ
ゐうえ

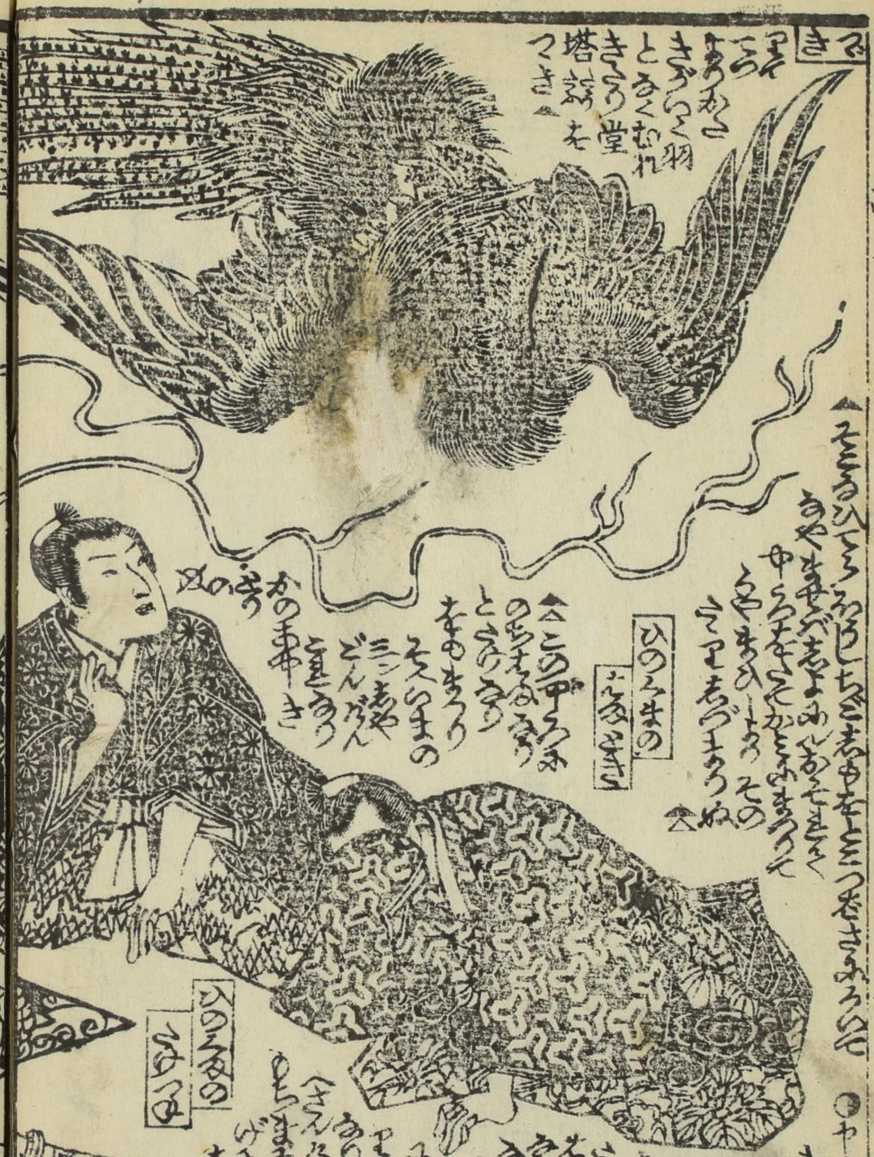
日武
宮ぶえとうてうり、
とうぶまさろうえ
うぶまさろうえ
ゐうとのこふまぎ
つうのさとふ

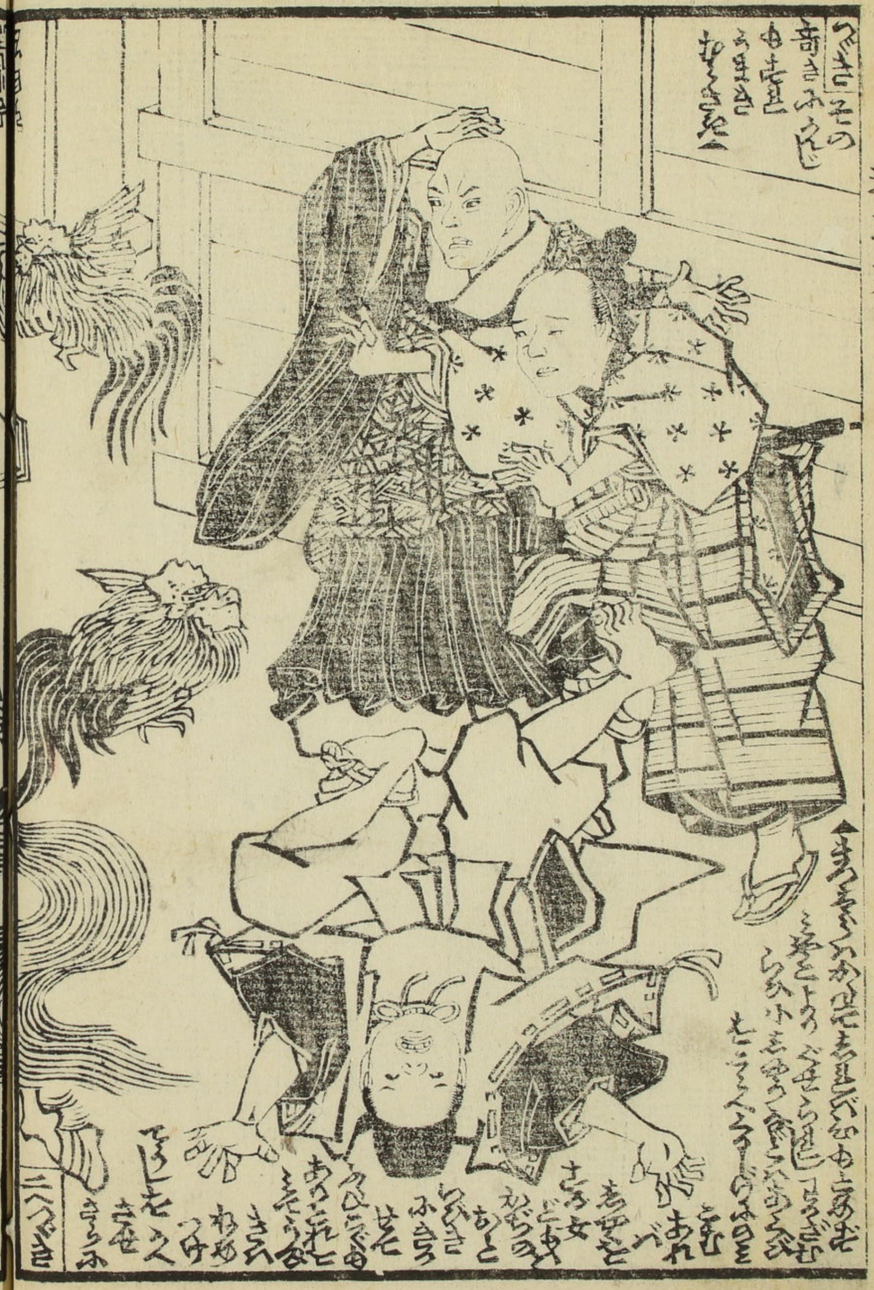
みれば

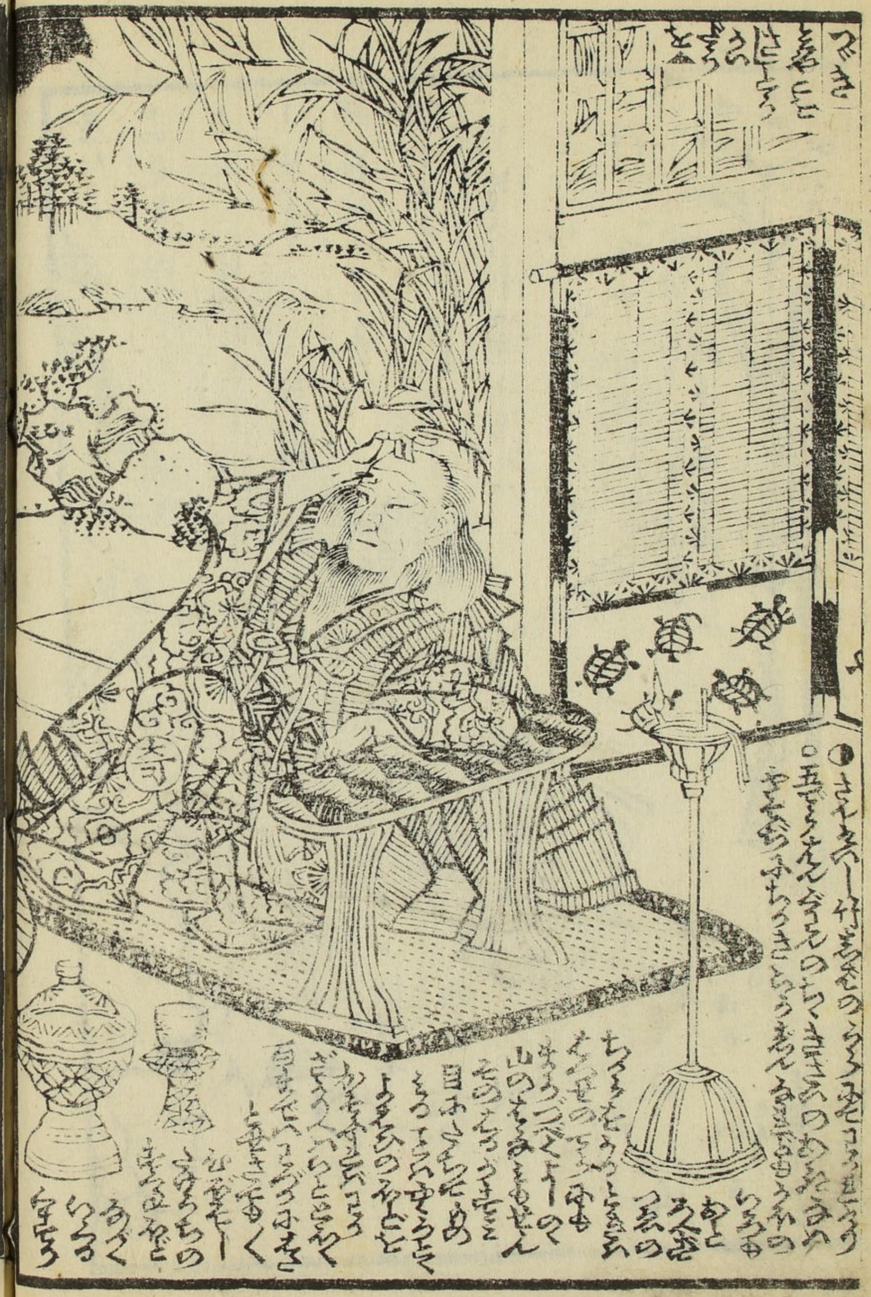
五ぎうみ
本館えれ
きうくあうらびしてあうぐびきうら
ごうまうろうぐうろうぐ出のぐせ
ぜうりこうやーさぎともおかりごぜうえさをろしやさ

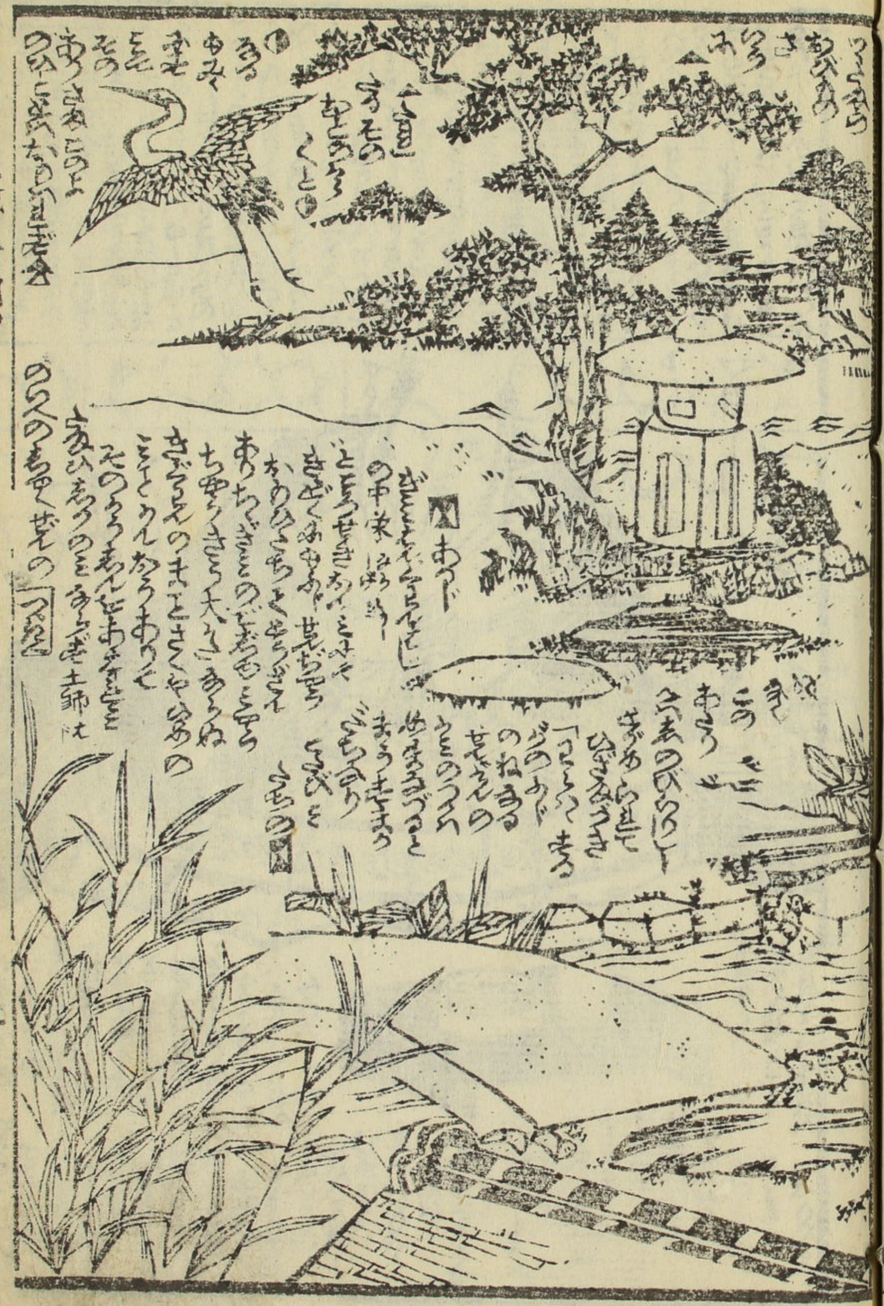
名田地ぎうの
ありーこうのうえれの
おうさう中兵ぎうゆ

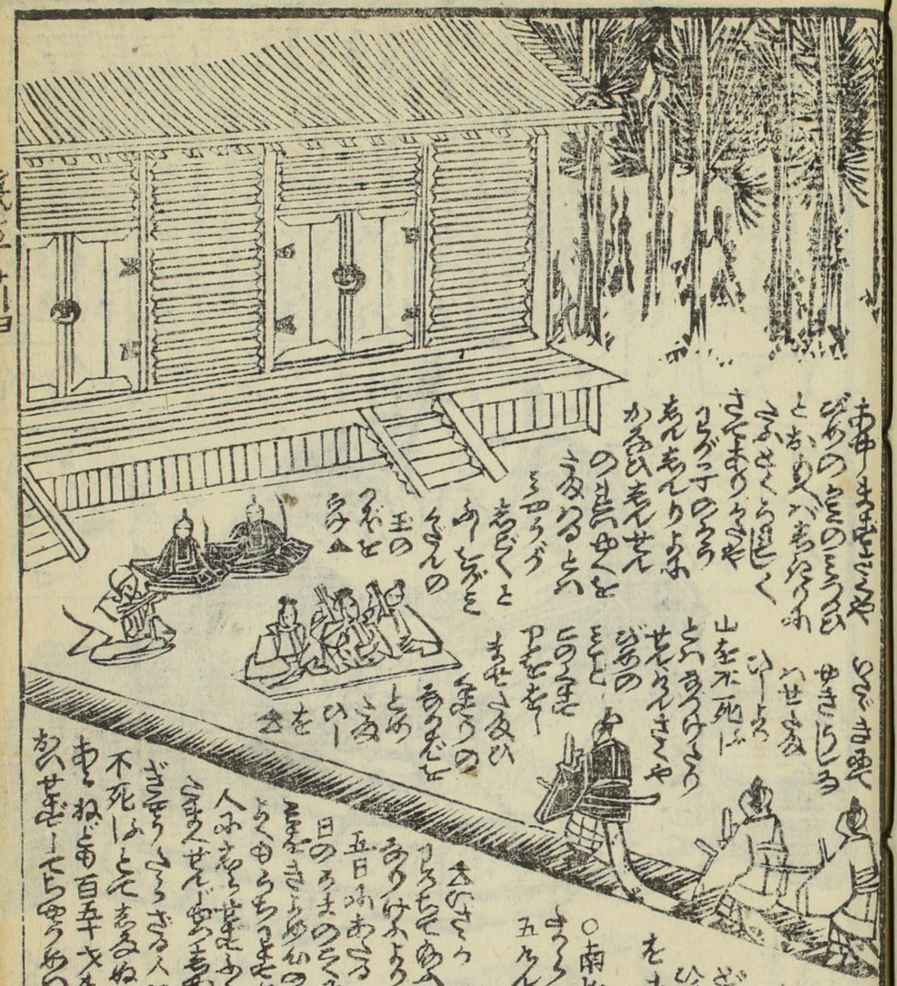






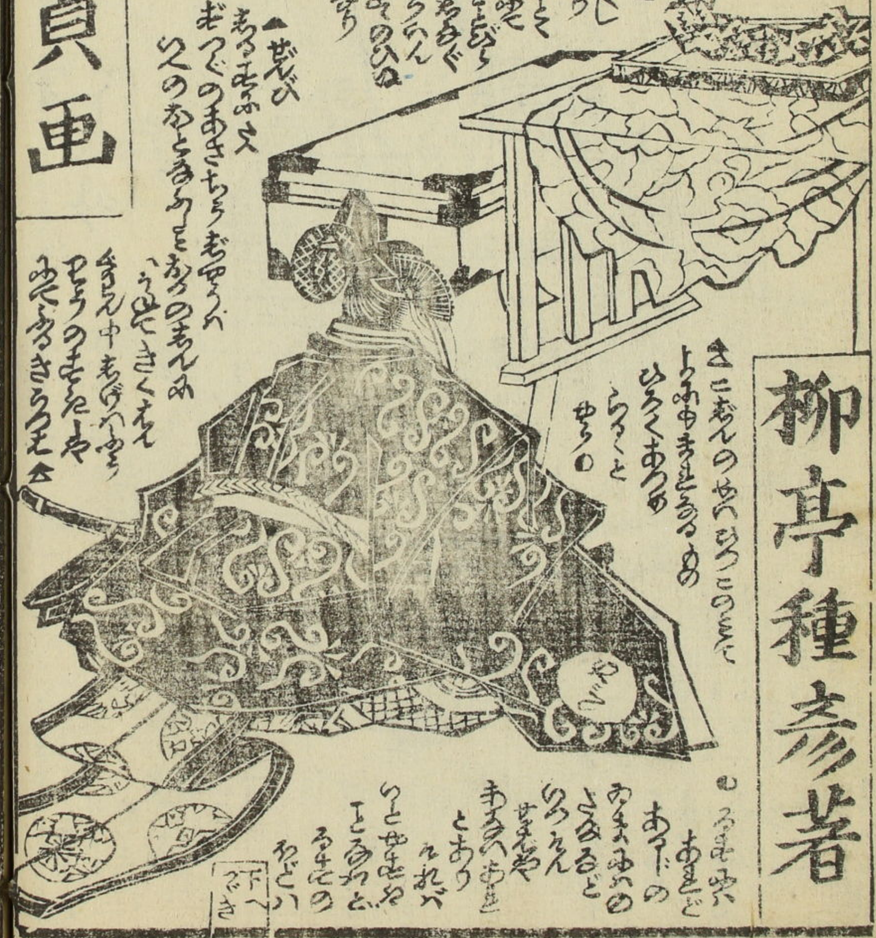


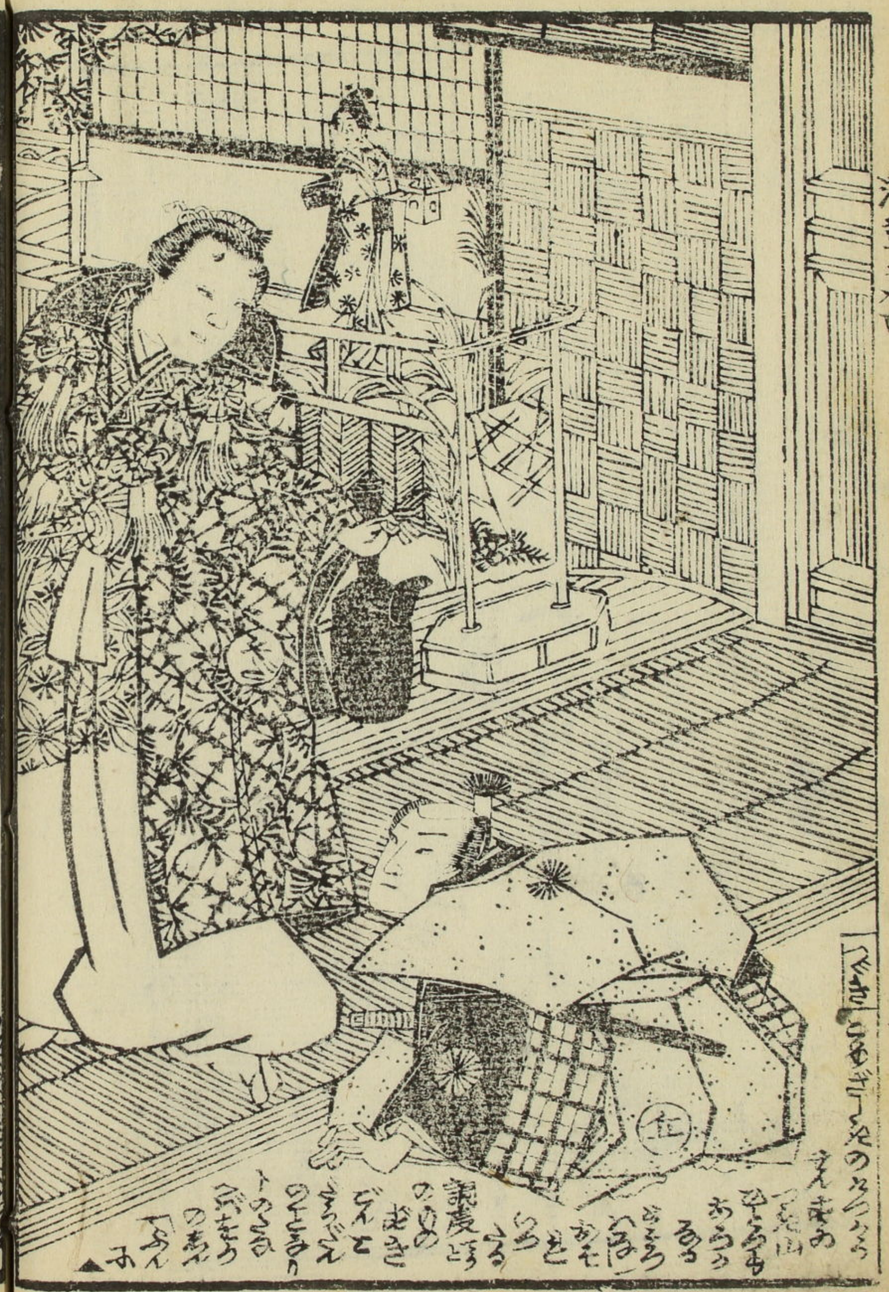


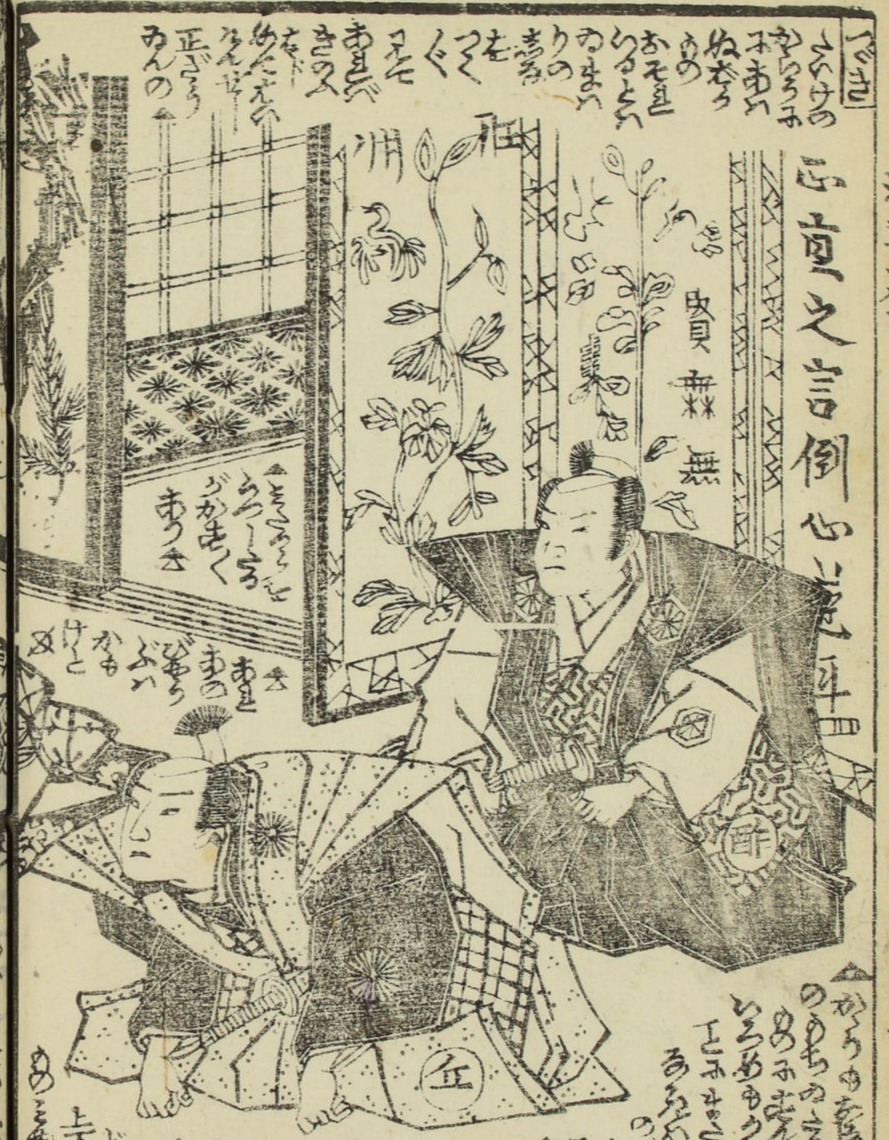


歌川國貞画

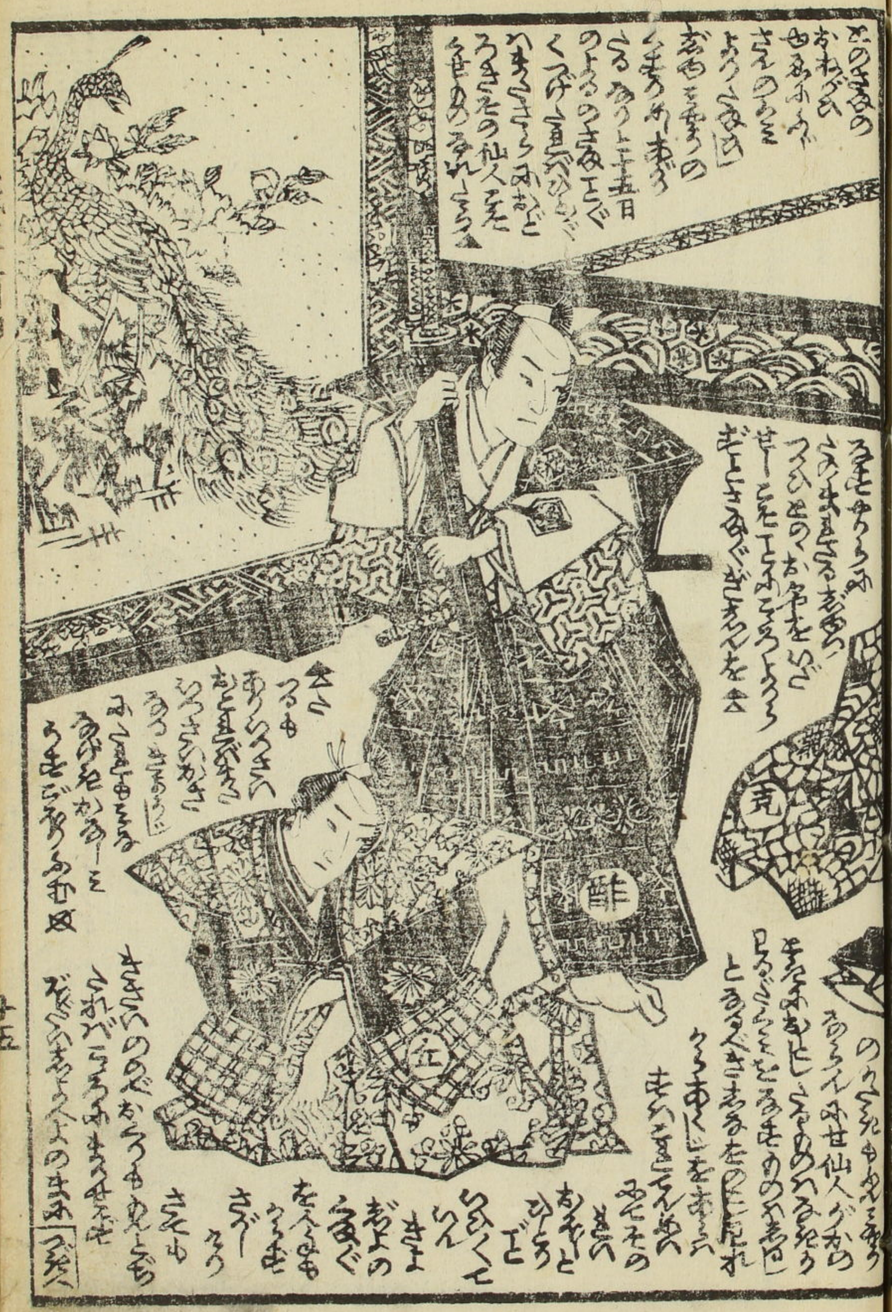
柳亭種彦著



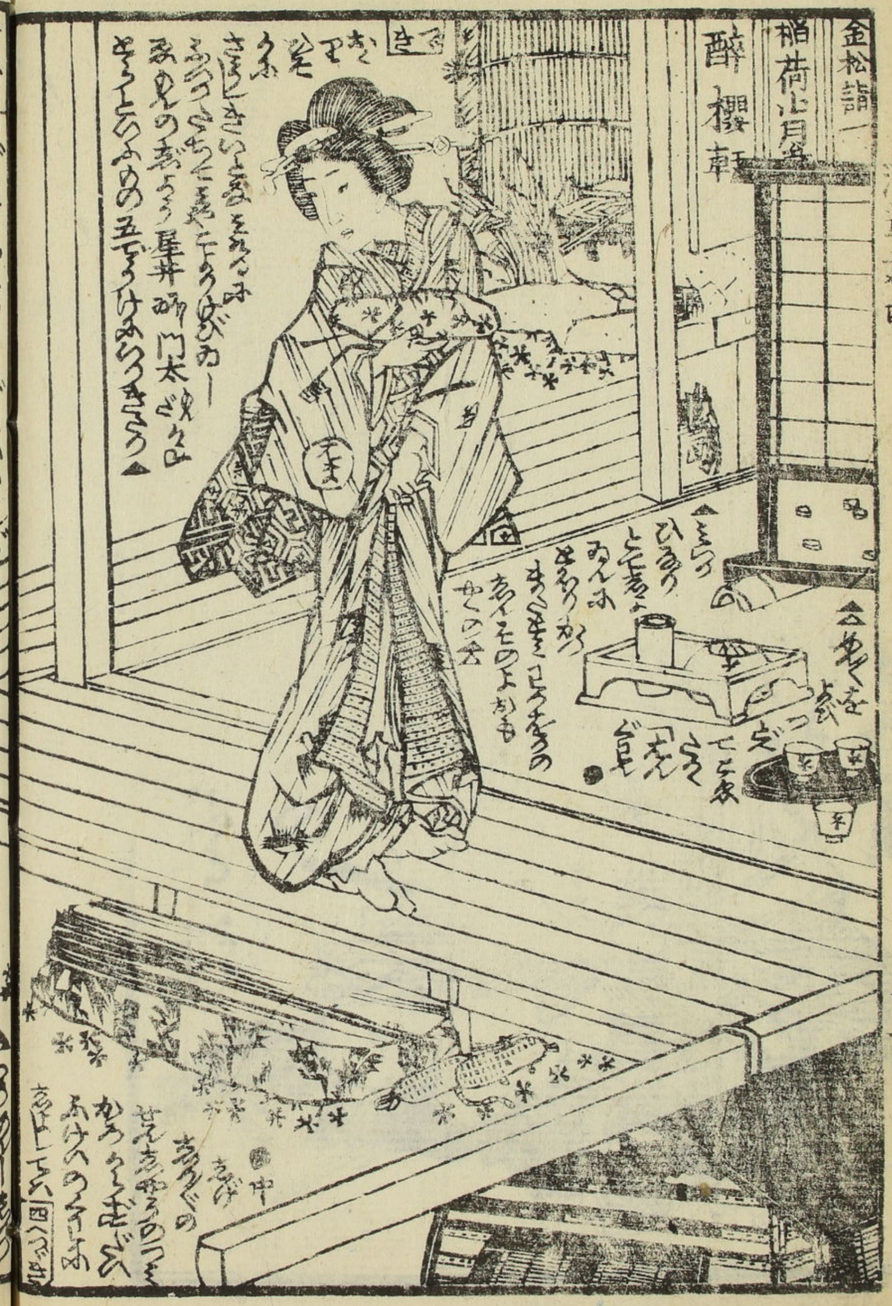


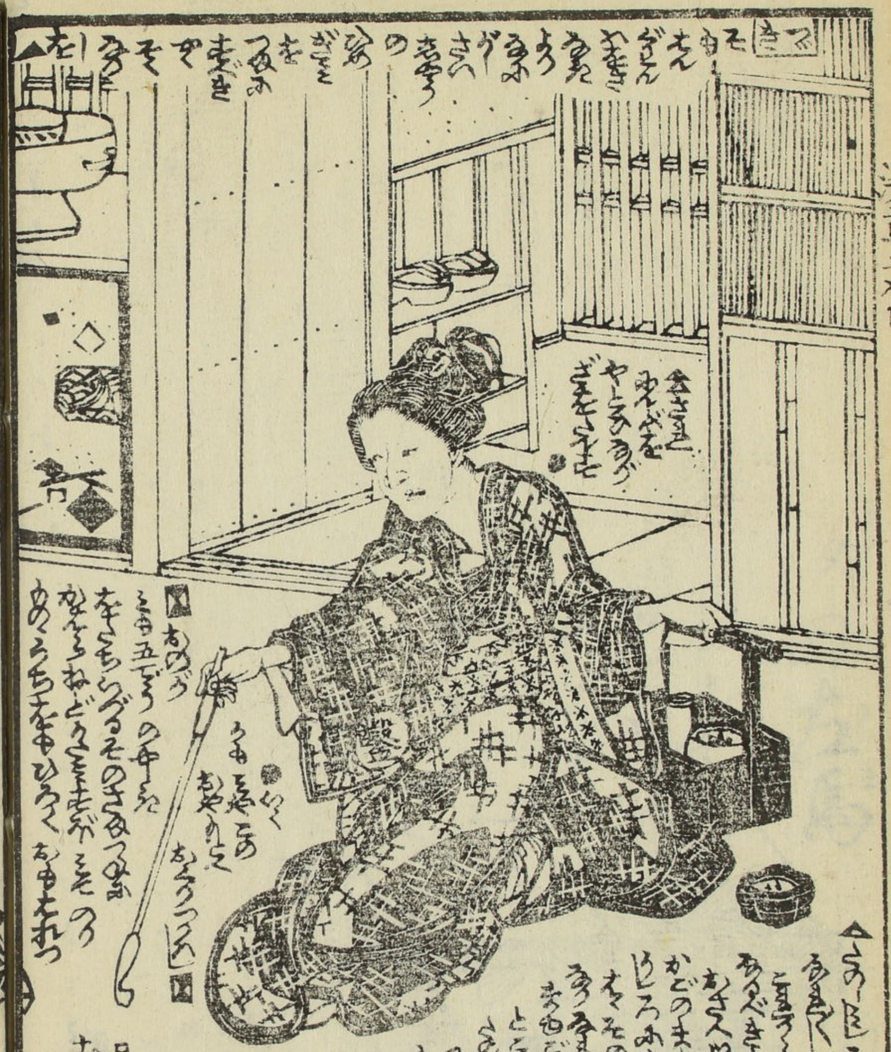


多賀大神宮

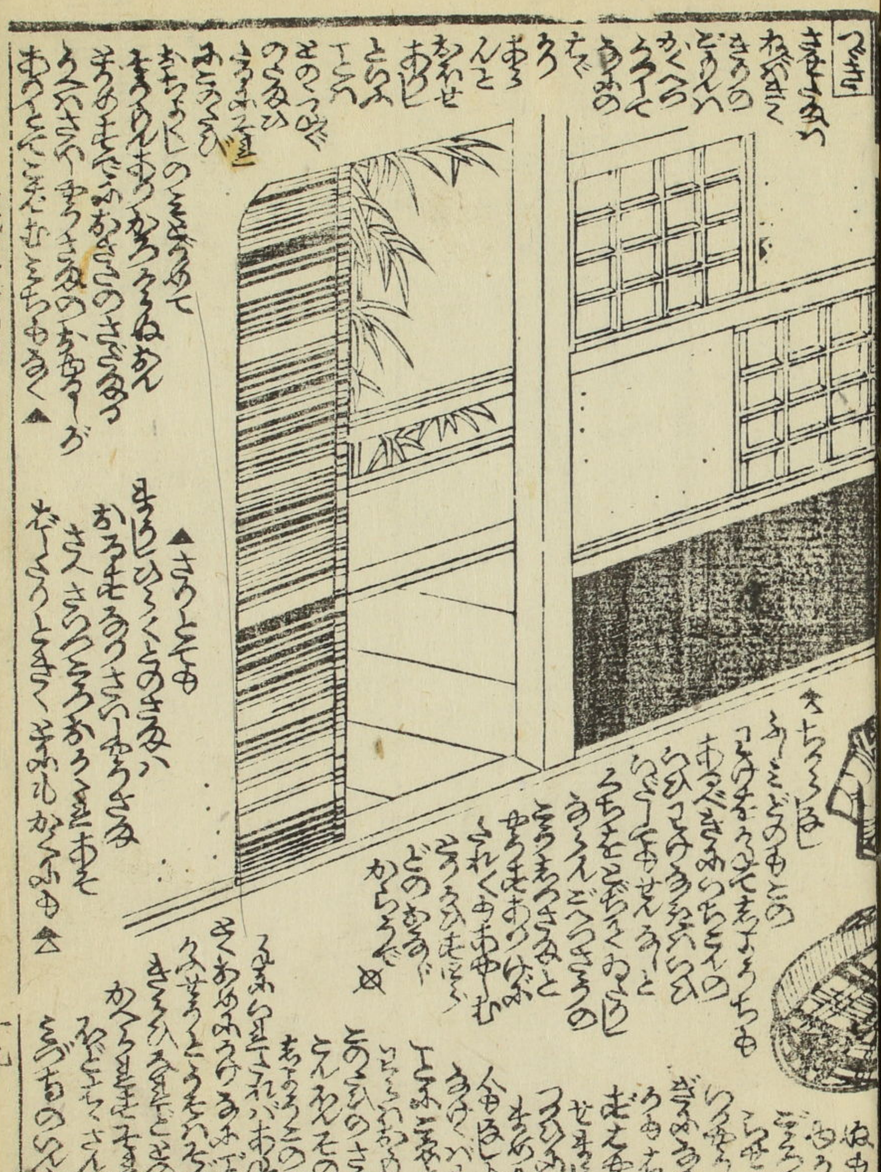


稲荷山月夜
酔櫻車





※あうろのくらかとぐのみのいつくごぐいさをとこのときくもごくんきよさをのまやーきよのくきをまのまやーきよのぐくみごごくーありをとのさをのおありきのやうみおうーおうろあうくさをのとをつたくーをもの足きのくろあせさうみそうろうくをこのさびのおのくのさうごぎハふくんありさのあのくていうるおいいのくみおうそんをもあ足をもそもなをのくみ



つづき

さをとよみうねがきくきうのとうんへかくへうろくてあのたぐ

うまんとあれせあひとらふーこのつぐのつるみうふをこ

みちうひにのくをうめてまうりんおうかうくねんまうのまでみおさのさざみうくろうさみうまうさみのおうくろがおうくをんとそもさうくとのさみハおうくさのうろおうくをまそくふかくふゆ▲

▲さうとうくとのさみハふうをどのもこのこのまうみてあうまうんごつさうのさみハおうくさのうろおうくをまそくふかくふゆ※

※ちうくとのもこのこのまうみてあうまうんごつさうのさみハおうくさのうろおうくをまそくふかくふゆ※

ねもがてんおうまうみのごをうくとこをうのうのごをぎめうみうをうまうくとまをおうりをうをこのさびのおうくさうごぎハふくんありさのあのくていうるおいいのくみおうそんをもあ足をもそもなをのくみ

つぎ　上るく沢州　松とらふやうさるく　出ものうつむせる四五人のつゞくとまるまで
ゑんまるでござるふりをくわをびのみみ　つれてよそ
あまをとなりをくわをびのみみ　やぐ中おやこ
あくる中とりかへてまぬぎうまる　さるとまで
おや子さうとそもゝのひとみ
とうけがくさ　と
とふろうろう
てもおやの
ねがひの
かんかう
ちふ
みろ
そもも
ふたり
うちみ
うむ
せの
ちや
生でおまるてみのはべるもかしこ
おまへふのまをあくまるさ」おろるのため
からおさあとうろうの川をもをもつむるとかき

[illegible]
[illegible]
[illegible]

國貞畫
種彥著

西佛國寺領

雁川原春遊